

彦根市が「今」すべきこと 彦根市の財政説明会を開催しました



12月6日にひこね市文化プラザ（野瀬町）にて開催された「彦根市の財政説明会」。当日は、和田市長とゲストの前安芸高田市長の石丸伸二さんとの対談方式で進めました。第1部では、市の現在の財政

状況や今後の財政運営における出口戦略などについて、和田市長自ら説明しました。
第2部では、地方自治、議会や報道の現状などについて対談を行いました。

彦根市の財政の現状

彦根市の財政の現状は、一言で表すと、**「危機的な状況」**です。

その原因は、過去に国スポ・障スポの主会場を誘致したことで、周辺道路の整備や体育館の移設など大きな設備投資を行い、それによる市債（借入れ）の償還が長引くことです。

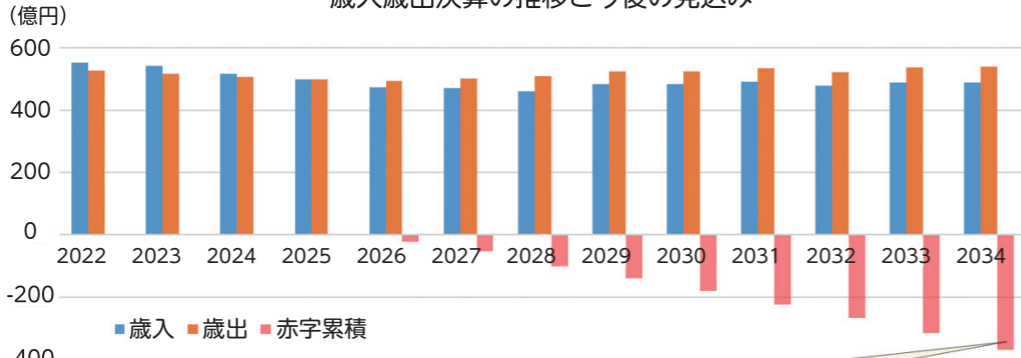
また、賃金の上昇や物価高騰の影響により公共施設の維持費をはじめとする物件費の上昇は、市の財政を非常に圧迫しています。これらの要因が重なり、令和5年（2023年）度は市税収入、ふるさと納税の収入が過去最高を更新したにもかかわらず、支出に迫っているのが現状です。

このまま対策を講じなかった場合、令和8年（2026年）度以降は赤字になると予想され（右上グラフ参照）、社会の変化をとらえた政策どころか、**現状を維持することすら困難**になります。

未来のために今を「見直す」ということ

このように危機的状況にある今の彦根市には、人口減少時代に応じた持続可能な財政運営への「見直し」が急務です。**各事業や公共施設に関しては、その必要**

歳入歳出決算の推移と今後の見込み



10年間で累積赤字 369 億円

性を検証し、優先順位をつけていく必要があります。その例として挙げられるのが「ふれあいの館の閉館」です。現在の利用状況と今後の維持に係る費用を照らし合わせ、苦渋の決断で閉館を選択しました。**11万人の市民にとって、最善の選択をしていく必要があります。**

同時に、市の人口を減らさないような取組も必要です。そのため、ふるさと納税などで「稼ぐこと」が重要となってくるのです。

石丸伸二さんは、上のグラフについて、自治体は赤字を出せない中で、帳尻を合わせないといけないと前置きされた上で、できるだけ**多くの市民が納得するような決断が必要である**、と話されました。



▲当日の様子は
こちらから

市内で撮影を実施！映画作品が公開されます

雪の花

—ともに在りて—



あらすじ

江戸時代末期。死に至る病として恐れられていた疱瘡（天然痘）が猛威を振るい、多くの人命を奪っていた。福井藩の町医者で漢方医の笠原良策（松坂桃李）は、患者を救いたくとも何もすることができない自分に無力感を抱いていた。自らを責め、落ち込む良策を、妻の千穂（芳根京子）は明るく励まし続ける。どうにかして人々を救う方法を見つけようとする良策は、異国で種痘（予防接種）という方法がある事を知るが――。

配給：松竹

監督：小泉堯史

原作：吉村昭「雪の花」（新潮文庫刊）

©2025 映画「雪の花」製作委員会



◀作中に登場する琵琶湖畔のシーンとして、薩摩町の湖岸緑地で撮影が行われました。

室町無頼



あらすじ

1461年、応仁の乱前夜の京。大飢饉と疫病が同時にこの国を襲った。しかし、時の権力者は無能で享楽の日々を過ごすばかり。貨幣経済が進み、富める者はより一層富み、かつてない格差社会となっていた。蓮田兵衛（大泉洋）は、己の腕と才覚だけで混沌の世を泳ぐ自由人。しかし、ひそかに倒幕と世直しを画策する無頼漢。京とその周辺の悲惨な状況と窮民を見た兵衛は、立ち上がる時を狙っていた…！

配給：東映

監督・脚本：入江悠

原作：垣根涼介「室町無頼」（新潮文庫刊）

©2025『室町無頼』製作委員会

© 2016 垣根涼介／新潮社



南三ツ谷町の湖岸緑地で撮影が行われました。

『映画のまち彦根』パネル展開催！

これまで、市内で撮影されてきた映画やドラマなどの映像作品のロケ地を紹介します。

🕒 1月20日(月)～同31日(金) 📍 市役所本庁舎（元町）1階市民ホール

📞 フィルムコミッション室 ☎ 30-6153 📠 24-9676